

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	B型通園事業(重症心身障害児者通園事業)	会計	一般会計	事業No.	146	施策順No.	34-021
		事業種別	政策・重点	予算科目	3-2-4-14-1		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	子育て支援課		
施策	34 障害者福祉の推進	事業期間	開始	19	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	1 重症心身障がい児(者)とその保護者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	飯田下伊那の在宅重症心身障がい児(者)数(人) 県資料(飯田下伊那地域の重症心身障がい児の状況)より		62	64	67	67		
	対象をどう変えるか	家庭外での活動の場を広げ、発達の支援をする							
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	対象をどう変えるか	通園して訓練を受けた障がい児(者)の数(登録者数)／飯田下伊那の在宅重症心身障がい児(者)数 (%)	63.4	45	46	49	49	49	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		支援を必要とする障がい(児)者やその保護者が療育を受け、家庭外での活動の場を広げることができた							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	1 身近なところで家庭外の日中活動の場が得られるようにする。 2 重症心身障がい児(者)や保護者が希望する日にできる限り通所できるよう体制を整える。 3 楽しみを見つけれられるような多様なメニューを準備する。(生活リズム作り、摂食、散歩、感覚遊び、余暇利用他) 4 療育センターひまわりの事業内容を地域の人達に広く知ってもらえるような活動をする。		
	事業内容	名称	活動量・単位
	22年度事業内容	1 訓練 2 遊びを通じた楽しみづくり 3 食べる事の楽しみづくり 4 健康管理 5 療育相談	登録者数 延べ利用人数 1日あたりの平均利用者数
23年度実施計画	1 訓練 2 遊びを通じた楽しみづくり 3 食べる事の楽しみづくり 4 健康管理 5 療育相談	登録者数 延べ利用人数 1日あたりの平均利用者数	

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (県)重症心身障害児(者)通園事業委託金(国1/2、県1/2) (そ)重症心身障害児(者)通園事業給食実費徴収金ほか
	国庫支出金					
	県支出金		9,863	6,607	9,863	
	起債					
	その他		882	602	882	
一般財源						
計(A)		10,745	7,209	10,745		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			7,209			

4 事業に対する市民や議会の意見

--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	支援必要とする障がい(児)者やその保護者が療育を受け、家庭外での活動の場を広げられる。(障がい者福祉の充実)	施策の成果指標又はムトス指標	ひまわり重心登録児(者)数(人)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	重症心身障がい児やその保護者が健康管理を受けながら、遊びや生活を通して動きやすい体づくりや人とのふれあい方を学び、楽しみを見つける場となっている。		
	後期に向けた課題	平成19年登録24名、平成22年度末33名、年々増加傾向が予想される。家庭外での活動や楽しみづくりの充実を図る必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	県実施要綱で定められた1日の利用人員5人以上を受け入れるため、これ以上の受け入れは困難である。		
	後期に向けた課題	利用人数1日平均5.1~6.1を維持していく		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	利用者一人一人に人の手が必要な為、削減は容易ではない。		
	後期に向けた課題	特になし		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	経済コストの面からも民間では困難な重症心身障がい児(者)の日中活動の場の確保のため、市が関与する必要がある 受益者:重症心身障がい児とその保護者 負担:1日 500円		
	後期に向けた課題	適切であり、継続が必要		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	主体は市 近隣市町村の保健師、病院の医師、リハビリ等の連携により、在宅の重症心身障がい児(者)の家庭外での活動や療育へと繋げることができた		
	後期に向けた課題	継続		
全体を通じて	4年間の振り返り	飯伊圏域の中で、重症心身障がい児(者)の家庭での生活作りや療育に貢献でき目標達成することができた		
	後期に向けた課題	職員が、重症心身障がい児(者)とその家族のニーズに応えられるよう人材の確保や育成を図り、研磨を積む		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------